

朴坂山・日本国

毎日新聞旅行 10月31日・11月01日

新潟県の村上市近郊の山である。ツアーリーダーは歌う山案内人の小室さんでサブは元気印のバーサマ戸村さんである。メンバーは男が4人、女が20人でいつもにもまして女比率が高い。おなじみのNがサさんのバーサマと通称ツルベーのジーサマがいる。本当に顔はツルベーのそっくりさんである。体はもうちょっとスマートで、山で鍛えているだけある。酒の銘柄に詳しく、案外ノンベエであったのは意外であった。

朴坂山



マイタビの靴マークも2であるのでハイキング程度であろうと思った。朴坂山は438mであるので高尾山大好き人間の我が姉からはなにこれ“高尾山より低いじゃないのよ”と言われた。だが往きのバスの中で小室さんから“途中ロープが6か所くらいあります”と言われたがまあたいしたことはないであろうと思った。ところがこれがとんでもない。雨模様の天気であったので足元も悪かったが急登も急登、なるべくロープは掴まないようにしているのであるが、こ

のさい恥も外聞もない最後の方は掴みっぱなしであった。それでも登りは何とか上がったが、降りにはひどかった。登りの時に、降りでは苦勞するだろうと予測はしていたが一度転んだら後が止まらない。5回くらい転んだであろうか。雨具は泥だらけになった。おまけにトロイと思っていたバーサマ達にも置いて行かれた。バーサマの中には80歳以上の人もいたというから情けないことこの上もない。

この日の泊は村上瀬波温泉の汐見荘というホテルである。毎日新聞旅行で普段よく泊まる民宿とはずいぶん違って一流ホテルである。村上に近いところのホテルということで夕食は魚を中心にしてさぞご馳走であろうと期待したが、民宿の料理とちよぼちよぼであった。

日本国 (555m)

これはまたすごい名前を付けたものである。聖徳太子くらいの時代にこの山の名前となった逸話があるらしいがほんとかどうかはわからないらしいからここには書かない。この日は天気も良く道も勾配がきつくはなかったので、楽しい山登りができた。大それた名前の割には平凡な山容の山であった。毎日新聞旅行が良く使っていたバス会社でジューエル観光の工藤さんが行ったときのビデオ見せてくれたことがあるのでこの山の名前は知っていた。



このツアーは、“小室さんと山の歌を歌うツアー”とカタログには書かれていたのに、小室さんの歌はバスが新宿に着く直前に“ナタメ”の1曲のみであった。“金返せー”だ。